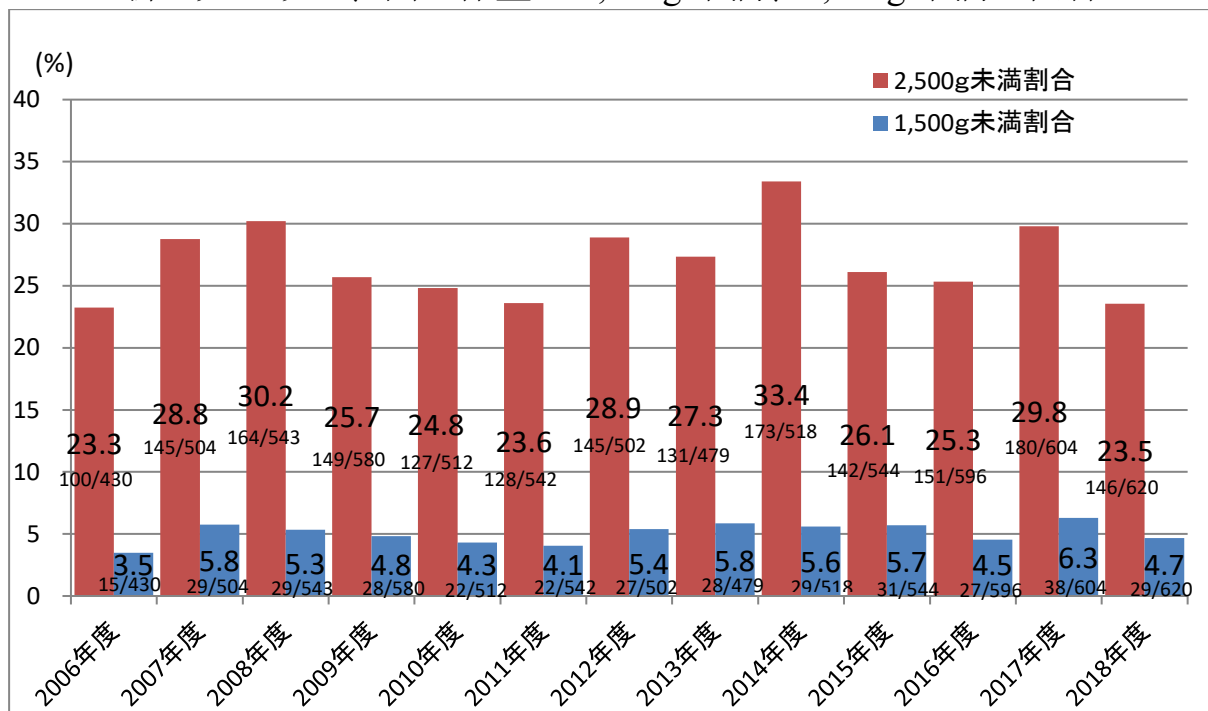


4.4. 新生児のうち、出生体重が1,500g未満、2,500g未満の割合



低出生児の割合は、病院の機能によりこの値が大きく異なるため、他施設とのベンチマークは望ましくないが、当院における出生体重が1,500g未満、2,500g未満の割合は、2006年以降12年間で、前者が3.5～6.3%、後者が23.3～33.4%と、概ね横ばいであった。

その一方で、当院の分娩数は増加傾向にあり、早産の割合も2014年度23.7%、2015年度21.9%、2016年度26.3%と上昇しており、ハイリスク妊娠・分娩も増加していることから、こうした状況の中で1,500g未満、2,500g未満の出生体重の割合に変化がないことは、当院の周産期管理体制のレベルアップが寄与している可能性が考えられる。

データ提供 看護部 B-3 病棟（産科）